最　　新

唱歌教科書

（伴奏附）

美しの四季

Moderato.

一二三四 ヤあクひ　ヤをサさ　ベばバよ　ノわスほ　モをノの　ベたエど　モるニに　カかヤや　タびユか　ワひツお　ミのルも　スぜドま　リきチも　一一一一　ハかヤと

ルどタき　カべマじ　ゼをトぐ　カめミは　ロぐスな　クるルに　ンみツう　デづキも　ニのノれ　カしヒは　チらカて　ルべリて　一一一一　アおヒみ　フのトゆ　グづノろ　ソかコか　ラらコぎ

ニなロり　ハるニは　ヒがカひ　バくカと　リをルつ　ウかクい　タなモろ　ヒでモの　一一一一　エかハか　メみレみ　ルのヨの　ハびトみ　ヌめバわ　ニごカざ　一一一一　ハとリの　コわナら

テれレく　一にハど　チかテな　ドたルれ　ルるカや　一一一一　ウうルるハは　ウうルるハは　シしシし　ウうルるハは　シしシし　ハなアふ　ルつキゆ　ノのノの　ナなナな　一一一一　ガがガが

メめメめ　一一一一　ウうルるハは　ルるハは　シしシし　ウうルるハは　シしシし　ハなアふ　ルつキゆ　ノのノの　ナなナな　一一一一　ガがガが　メめメめ　一一一一

※(此ノ所マデ單音ニテ。以下ハ**ソプラノ**及**アルト**ヲ以テ二重唱スルモ可ナリ)

春の歌

春の里

Lieblich. (愛らしく)

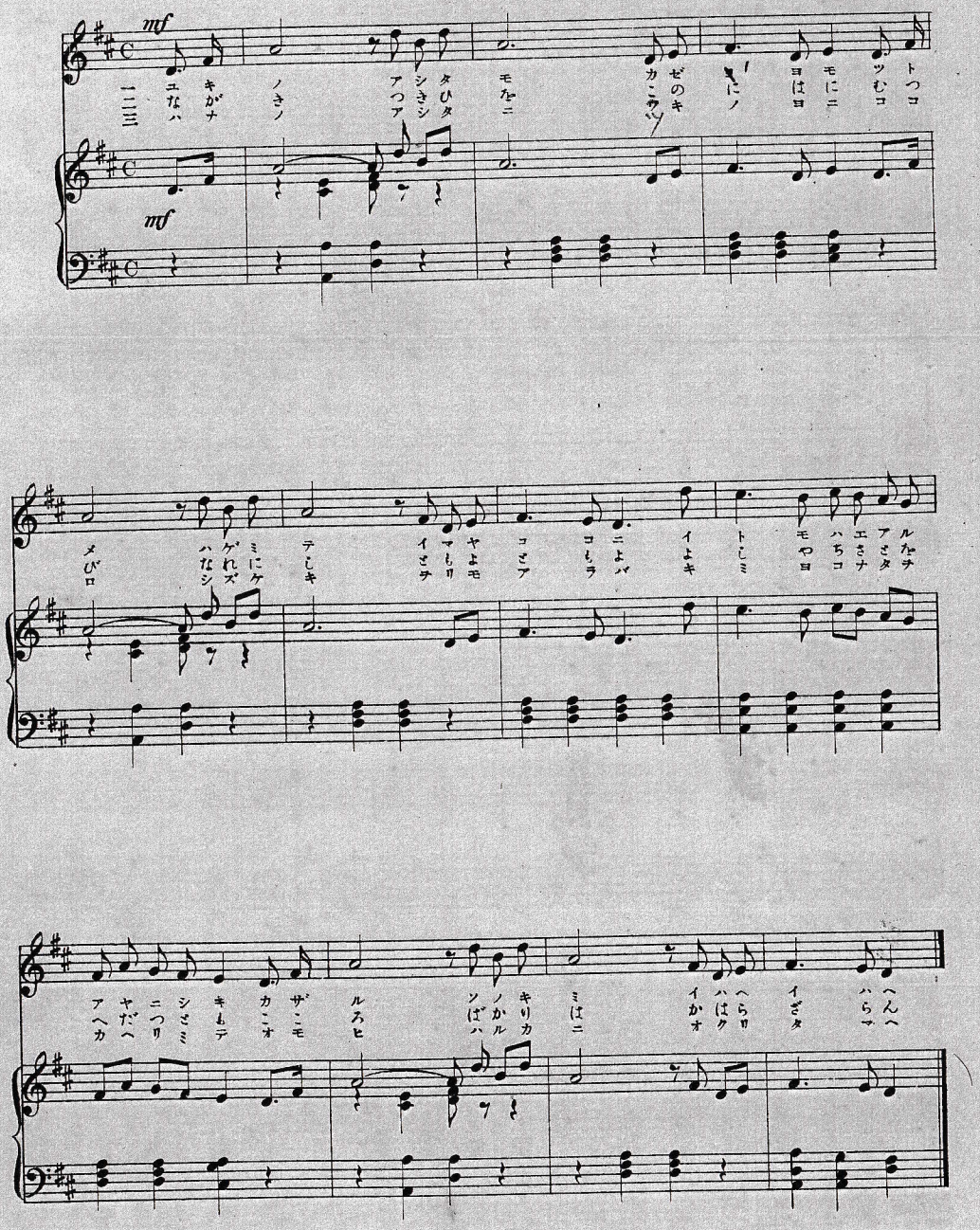
せチジ　しーのもわ　しもモが　ぐモ　さモ　ユげ　ヤる　ルこ　ぺは　ハを　ルだ　せ到　人の　ノあ

ぜに　ユやカさリし　ノき　イすーーーローがーた　チは　ケかタげ　カに　ク

ミーかースーーく　ールーす　スーすーミーーれ　レーーーのー　ノは　ハーーな　ナなニに　チなハを

ギテれーフ　ラもへ　ーーーーーー　カうシつラむ　シきラな　チがタら　タレーテ

卒業の友を送る



昭和貳年三月二十日印刷
昭和貳年四月一日發行

定價金壹圓五十錢

編纂者　若狹萬次郎

印刷者　大阪市東區北濱三丁目二〇番地ノ一　山中壽一

印刷所　大阪市東區北濱三丁目二〇番地ノ一　山中金龍堂

發行所　大阪市西區北堀江通一丁目　日本樂器製造株式會社　大阪支店

代表者　刀原四郎

不許復製

検印

○春の曙

（ヴェーベル作）　犬童球溪

一、花より明けゆく春の曙
　峯より別るる空の横雲
霞に包める山もと
　朝げの烟か遠くなびく
塒を離れてなき行く鴉
　何處をさしてか三つ四つ二つ。

二、月より白むか春の曙
　山の端ほのぐ〳〵松も見わつつ
霞に包める里村
　今しも夢よりめざめぬらし
みそらを仰げばかりがね高く
　家路をさしてか鳴き連れ歸る。

○美はしの四季

犬童球溪

一、山邊も野邊もかすみわたり
　春風輕く袖にかをる
仰ぐそらには雲雀うたひ
　笑める花には胡蝶をどる
美はし〳〵春のながめ
　美はし〳〵春のながめ

二、青葉をわたる風のひゞき
　門邊をめぐる水のしらべ
自然なる樂を奏で
　神の祕事我れに語る
美はし〳〵夏のながめ
　美はし〳〵夏のながめ

三、草葉の末にやどる露を
　眞玉と見する月の光り
人の心にかゝる雲も
　はれよとばかり汝れは照るか
美はし〳〵秋のながめ
　美はし〳〵秋のながめ

四、一夜のほどに山も丘も
　時じく花に埋れはてて
見ゆるかぎりは一つ色の
　神のみわざの樂土なれや
美はし〳〵冬のながめ
　美はし〳〵冬のながめ

○春野の堇

犬童球溪

一、百草萠ゆる春の野べに
ゆかりの色をけだかく見する堇の花
何を恥ぢらふ頭を垂れて。

二、若草しげる小田の畦に
優しき姿葉かげにかくす堇の花
何を思へる俯きながら。